

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間: 2023年12月
結果公表日: 2024年3月29日

回答率

事業所職員: 4名回答、回答率 100%
保護者様: 18名回答、回答率 72%

職員の意見

○環境・体制整備

職員配置については、法令上の人員基準を満たしているものの、職員の異動等によって不安を感じる部分があるものの、安全に留意して教室運営を行っている。
環境については、活動の内容によって訓練室が手狭に感じるものの、高学年の児童と遊びのルールの話し合いを複数回行い、ルールを決めたり、活動スペースを分ける等を行うことでスペースの確保に努めている。

○業務改善

支援前・支援後のミーティングには全員が重要性を理解して参加し、全員が発言しやすい雰囲気を実施することができている。
自由時間内の児童同士のトラブル減らすため、1日に複数回集団活動を行う、個別課題を提供する等、秩序のある中で児童が過ごせるよう改善することができている。
年1回のアンケートで内部・外部からの評価を確認し、次年度の目標に反映している。

○適切な支援の提供

下校時刻表を複数の職員で確認することで、ミスなく送迎を行っている。
個別支援計画作成面談の前には、職員間で児童の目標達成度や課題を話し合い、より適切な目標設定、支援ができるよう工夫している。

○関係機関や保護者との連携

学校の担任の先生や、相談支援事業所の職員と定期的に連絡し、情報共有や支援内容を検討する等、連携している。

○保護者への説明責任等

毎月ニュースレターで前月の活動報告と次月の活動予定をお知らせしている。また、イベントや課外活動の様子を定期的にブログで発信している。
既存利用者から多くいただく質問等に関することは、新規利用者には特に丁寧に説明を行うようにしている。契約時は重要事項を説明し、個人情報の使用同意を頂いた上で契約している。

○非常時等の対応

非常時の保護者への連絡や、車の乗り降りの際の児童対応について見直しを行った。今後も、少しでも不安のある部分については職員間で共有し、安全管理を徹底して行う。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

概ね満足いただいているが、職員体制について、法令上の人員体制は整っているものの保護者からは人手不足と感じる、補充される職員の支援の質に対し疑問、分からないとのご意見をいただいた。

○適切な支援の提供

・個別支援計画の作成や活動プログラムの工夫については、8割以上の方から満足いただいている。支援計画が適切に作成されていること、活動プログラムが工夫されていることなど、高評価をいただいた。障害のない児童との交流の場が設けられていないが、それに対する要望の声はなかった。

○保護者への説明等

概ね満足いただいている。保護者との情報共有や、面談機会については、高評価をいただいた。保護者会等、保護者同士の交流の場を設けられていなかったが、アンケートにおいて開催を望む意見は見られなかった。苦情対応体制の周知について、「どちらともいえない」と回答した保護者が3割と、他の質問と比較して多かった。

○非常時等の対応

概ね満足いただいている。災害対応の訓練の実施について、「どちらともいえない」の回答した保護者が複数見られた。

○満足度

多くの利用者が事業所の支援に満足していた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・事業所内で利用者が快適に過ごせるよう、自由時間のルール設定や、スペース・使用玩具の工夫を行う。
- ・送迎時対応での保護者へのあいさつ、情報共有に関して、教室内研修を行う。
- ・保護者の方の協力を得て、各種関連機関と都度連絡のとれる関係を作る。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・低学年と高学年で遊びの内容・質が違い、訓練室での自由時間の過ごし方に課題があったが、児童とスタッフで話し合いの場を設け、安全に遊べるルール作りを行った。解消できた部分もあるが、まだ十分ではないため、都度話し合いやルール確認・変更を行う必要がある。
- ・新規利用者へのあいさつや説明を丁寧に行うことができ、送迎時等に会った際も欠かさず挨拶できている。また、日々のミーティング等で保護者からの情報を共有することができている。
- ・学校や他事業所、相談支援との会議の場を設けることができ、児童に関する情報を共有して支援に活かすことができた。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

・保護者との情報共有、支援内容について高評価をいただいております、実際にスポット利用の要望も増えている。コロナ禍も明け、祝日開室時に課外活動・調理活動を企画できるようになったため活動のバリエーションが増え、利用者が通所を楽しみにしている。

○改善点

・苦情対応の体制について、保護者への周知が不十分である可能性がある。
・職員体制について保護者への周知が十分ではない。
・近年、感染症対策のため保護者会を行っていなかった。
・エレベーター前に階段があり、バリアフリー化されていない。利用児童の送迎の際に弟妹を連れて来られる保護者の中には、ベビーカーを使用している方もおり、段差が障害となっている。
・定期的に避難訓練を行っており、新規児童も順応した。しかし、パターン化しているため他の集団療育と比べて児童の意欲が低く、また、成果が保護者に伝わりづらい。児童の印象に残りやすい活動にするため、内容を工夫する必要がある。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

・契約の際、苦情対応についての説明を丁寧に行う。
・職員の体制についてニュースレターやブログ等で周知をおこなうと共に、対応にばらつきが出ない様児童・保護者対応、事務的業務の方法を確立し、全体で共有することで誰でも対応出来る体制を確立する。

○1年間で取り組む具体策

・保護者会のニーズを確認し、日程や内容を検討する。
・避難訓練の方法の検討。参加態度を評価し、児童のモチベーションが上がるような提案を行っていく。
・保護者の児童送り迎えの際、スタッフが階段下まで児童を迎えに行く等工夫し、保護者の負担を少しでも軽減する。